

4・29「昭和100年」記念式典粉碎闘争 基調報告

改憲・戦争阻止！大行進

本日4月29日、戦犯＝昭和天皇ヒロヒトの誕生日に合わせ、政府主催で日本武道館で開かれる「昭和100年記念式典」を絶対に認めることはできない。天皇も出席し、高市が式典委員長となって開催されるこの式典は、日本帝国主義の侵略と虐殺の歴史を隠蔽し、居直り、美化し、天皇を前面に押し出し、いま再び公然たる侵略国家として登場して、中国侵略戦争に突っ込んでいくための戦争式典だ。闘う中国・アジア人民と連帯し、怒りの闘いで粉碎しなければならない。

この闘いは、高市の中国侵略戦争突進、改憲攻撃との真っ向対決であり、高市打倒の決戦だ。高市は「来春までの改憲」を宣言し、殺傷兵器輸出の全面解禁を閣議決定し、「総合的な国力の強化」「新しい戦い方」「継戦能力・防衛産業基盤強化」を謳う安保3文書抜本改定の有識者会議を開始した。これと完全に一体で、「敗戦帝国主義」としての制約をあらゆる意味で打破し、戦争国家への全面的転換のために式典をやろうとしているのだ。

アメリカ帝国主義・トランプ政権による「石器時代に戻す」「文明を滅ぼす」「石油を奪う」などと公言したイラン侵略戦争、イラン人民虐殺が今まさに強行されている。そして日米安保＝戦争同盟のもとで、日本（在日米軍基地）が最大の出撃拠点になっている。しかも国益主義をむき出しにして、中東・ホルムズ海峡への自衛隊派遣を狙っている。日本は「中立国」でも「平和国家」でも何でもない。「昭和」の原点である中国・アジア侵略戦争・大虐殺の上に、敗戦後も米帝を基軸とした戦後世界体制の一角で帝国主義として延命し、全世界への侵略戦争と軍事的支配の要であった日米安保体制を堅持・強化し、そのもとで戦争国家への道を追求し、そしていま米帝の世界支配をかけた中国侵略戦争を自らの戦争として決断し全面的に突進しているのが日本帝国主義である。侵略国家＝日帝を打倒しなければならない。

「昭和100年式典」への回答は、中国侵略戦争を阻止し、日帝・高市を打倒する巨大な反戦闘争をたたきつけることだ。式典粉碎の怒りのデモを闘おう。

【1】日本帝国主義の侵略と虐殺の居直りを許すな

「昭和100年」とは、日本帝国主義による中国・アジア人民2000万人を虐殺した侵略戦争、朝鮮や台湾への侵略と植民地支配であり、そしてこの侵略の事実を戦後も一貫して開き直り続け、戦後世界体制の一角で帝国主義的支配を継続してきた歴史である。

1926年に即位し陸海軍の最高責任者＝「大元帥」であった昭和天皇ヒロヒトのもと、日本軍は31年9月の柳条湖事件（「南満州鉄道」爆破を「中国人の犯行」とでっち上げ）で中国侵略戦争を拡大し、32年にかいらい国家「満州国」をでっち上げ、さらに37年7月の盧溝橋事件を契機に中国全土へ戦線を拡大した。中国人民を虐殺し、家を焼き払

い、金品・食料を奪い、女性を襲撃した「三光作戦」(殺し尽くし、焼き尽くし、奪い尽くす)、37年12月の南京大虐殺、じゅうたん爆撃、中国人を「マルタ」と呼びおぞましい生体解剖・細菌戦研究をやった731部隊をはじめ、残虐な侵略戦争をやり続けたのだ。

同時に、台湾、朝鮮への苛烈な植民地支配、「創氏改名」、民族抹殺、戦時労働力としての強制連行、そして軍隊慰安婦制度＝国家・軍による性奴隷制度でアジアの女性たちを徹底的に蹂躪し、命や尊厳を奪ってきた。絶対に許すことはできない。

以上のすべてが「天皇の軍隊(皇軍)」の下で行われた。侵略と虐殺の最大の責任者は天皇である。しかも天皇は、「国体(天皇制)護持」のための「捨て石」として沖縄を地獄の戦場とし、その後も降伏を引き延ばしてヒロシマ・ナガサキへの原爆投下も招いた。戦争末期から戦後の過程を、天皇制を護持し、帝国主義の支配の骨格を守りぬくことに一切を優先して立ち回った。

75年に記者会見で自らの戦争責任について問われたヒロヒトは、「そういう言葉のあやについては、私はそういう文学方面はあまり研究もしていないのでよくわかりませんから.....お答えができかねます」と平然と述べた。さらにヒロシマ・ナガサキへの原爆投下についても、「こういう戦争中であることですから、どうも、広島市民に対しては気の毒であるが、やむを得ないこと」と言い放った。戦争責任を絶対に認めることなく、一貫して開き直り続けてきたのだ。それは現天皇ナルヒトにも完全に貫かれている。

私たちは、この天皇と日帝、そしてあの侵略戦争の歴史を正当化していままさに再びの中国侵略戦争に全面的に踏みこもうとしている日帝支配階級・高市政権と天皇に対して、煮えたぎる怒りを爆発させて闘わなければならない。何よりも、日帝が膨大な数の人民に血を流させ、命を奪い、戦後においてなお侵略と抑圧を許してきた痛苦の歴史をとらえ返し、日本の労働者人民がアジア人民に負っている「血の債務」を見すえた時、この日本帝国主義を打倒し尽すことは絶対的課題だ。闘う中国・アジア人民と連帯し、中国侵略戦争阻止・日帝打倒の巨万の闘いをつくり出そう。

【2】中国侵略戦争阻止の沖縄闘争の爆発へ

本日の闘いは同時に、「4・28 沖縄デー闘争」である。「昭和100年」とは、沖縄を踏みにじり続けてきた歴史であり、いままさに沖縄の怒りを圧殺して軍事要塞化することを狙うものである。

「国体防衛」のための「捨て石」としての沖縄戦に続き、1947年には天皇ヒロヒト自らが米国による沖縄の長期軍事占領を提案し、1952年4月28日のサンフランシスコ講和条約と日米安保条約の発効をもって、「本土独立」と引き換えに沖縄は無制限・無期限の米軍政下に置かれた(沖縄「売り渡し」)。沖縄の労働者人民の基地撤去の要求と闘いを徹底的に踏みにじり、1972年のペテン的「復帰」で「基地の島」として固定化・強化してきた。沖縄は日米安保の最大の実体として侵略拠点とされ、基地が一切に優先され、米軍による事件・事故は繰り返されてきた。

そしていま、「第1列島線」(九州・沖縄～台湾～フィリピン)を主戦場に設定した米

国家安全保障戦略（NSS）－米国家防衛戦略（NDS）のもと、沖縄は中国侵略戦争の最前線として、全面的な軍事要塞化が進められている。中国侵略戦争作戦計画「EABO」（遠征前進基地作戦）の実戦部隊である在沖米海兵隊の＜「敵の射程圏内」（第1列島線）に留まり戦う部隊＞への再編・強化、辺野古新基地建設と一体の普天間基地の固定化、さらに自衛隊の大増強、陸自第15旅団の師団化、すでに配備された勝連（うるま市）や宮古・石垣などの地対艦ミサイルの長射程化は事実上前提にされ、さらに与那国駐屯地にも30年度までに地対空ミサイル配備が狙われている。

沖縄・南西諸島の軍事要塞化粉砕、全基地撤去、日米安保粉砕・日帝打倒を訴え、5月沖縄闘争に大結集し、中国侵略戦争阻止の安保・沖縄闘争の大爆発を切り開こう。

【3】歴史選択をかけ帝国主義打倒の反戦闘争に立ち上がろう

「昭和100年」に対する労働者階級の回答は、帝国主義を全世界的に打倒する世界史的事業を貫徹するということである。

1917年ロシア革命を突破口とする資本主義から共産主義への世界史的過渡期が、「一国社会主義」論のスターリン主義によって歪曲・固定化され、このスターリン主義の存在を条件として、もはや生命力を失い破滅的な世界戦争として矛盾を爆発させた帝国主義を今日まで延命させ続けてきた。だが今や基軸国・米帝自身が、戦後体制の破壊者として登場するところまで行き着いた。とりわけ米帝の世界支配を貫徹するためには中国スターリン主義の存在をもはや容認できなくなり、どんなに破滅的であろうが、力づくでその体制を打倒・転覆する侵略戦争に突っ込みやり通して、世界を暴力的に制圧する以外には基軸帝国主義として存立できなくなったのだ。そして日帝は、帝国主義としての存亡をかけて、この中国侵略戦争を積極的主体的に推進することを決断している。帝国主義のもとでの中国侵略戦争－世界戦争の破滅か、この帝国主義の支配体制を労働者人民の闘いで打倒するのか、歴史選択をかけた決戦の時が来た。

「昭和100年」とは、日帝の侵略と虐殺の歴史であると同時に、それに対するアジア人民の不屈の民族解放・革命戦争の歴史であり、それに応じて資本主義・帝国主義擁護の「平和運動」を打破して日本階級闘争の戦闘的・内乱的激闘を闘い抜いてきた歴史である。動労千葉や三里塚闘争をはじめ、改憲・戦争阻止！大行進運動にはその闘いの精神と蓄積が内在している。今こそ大行進運動の発展を切り開こう。

「昭和100年式典」粉砕の大デモをたたきつけ、中国侵略戦争に突き進む日本帝国主義・高市とその支配の支柱である天皇制を打倒・粉砕しよう。イラン侵略戦争許すな！中国侵略戦争阻止・改憲粉砕・高市打倒の大闘争へ、本日の式典粉砕闘争を闘い抜き、5月沖縄闘争から高市打倒の6・14全国集会－首相官邸デモを巨万の反戦闘争へと発展させよう。

以上